

ときえのチャレンジノート



この街に、笑顔の花を咲かせたい。

No.20 2024/7 発行

品田ときえ事務所
旭川市春光台2条3丁目
7-21 Tel&Fax 53-9341
メールアドレス
humituki.7.tokie
@icloud.com

みんなで創る街づくり 学びと経験を活かします！！

昨年4月の選挙から早1年2ヶ月。

毎年3~4号（葉書も含む）発行してきた市政報告『チャレンジノート』と活動報告『笑顔の会ニュース』の発行が途絶えていたことをお詫びいたします。😊😊😊

●旭川市議会は、新人議員が10人当選して女性議員も10人になるなど、議会の構成が大きく変わりました。

議員34人中18人と、与党が過半数を占める中、今津市長の暴走を許さず、市政をしっかり監視・チェックして議会の役割を果たす、二元代表制の真価が問われています。

そんな中、野党最大会派の民主・市民連合が、今年4月に2つの会派に分裂し、多くの皆様から、市政や衆議院議員選挙への影響を心配する、お怒りと失望の声が寄せられました。何とか回避したかったのですが、力不足で大変申し訳なく思っております。😊😊😊

現在の議会構成は、自民党・市民会議12人、公明党5人、民主・市民連合4人、日本共産党4人、旭川市民連合4人、無所属G3人、無所属2人（議員定数34人）

学校・放課後児童クラブにエアコンの設置を！！→提言書を提出！！

●所属する常任委員会は、新設された「いじめ防止対策推進部」を含む「子育て文教常任委員会」です。

昨年は、異常で危険な暑さから子どもを守るために「学校及び児童センター等の暑熱対策について」常任委員会として提言書を提出。「旭川女子中学生いじめ問題」再調査委員会の進捗状況等に関する臨時の常任委員会や、各種団体との意見交換を多数開催するなど、課題山積の、大変多忙な常任委員会です。

子育て文教常任委員会

意見交換会を多数実施

＜令和5年度＞

「旭川ユネスコ協会」、
「障害児も地域の普通学級へ・道北ネット」

＜令和6年度＞（6月末現在）

「旭川ユネスコ協会」、
「障害児も地域の普通学級へ・道北ネット」
(8月に、2回目を予定)
(以下は、民生常任委員会と合同開催)
「親子の面会交流を実現する全国ネットワーク・親子ネット」
「旭川医科大学先端医科学講座・上田准教授との、子どもに対する新型コロナワクチン接種の推進を見直すことについて」

旧庁舎で最後の質問

実母からの虐待最多!!しかし、DV被害者は、子どもの加害者にカウント!?

昨年の第3回定例会で一般質問をし、「児童虐待防止と子育て支援対策」「正規雇用推進対策」の質問をしました。

児童虐待への対応等を問う中で、要保護児童対策地域協議会（虐待の疑いや支援を必要とする等、情報共有と対策等を検討する会議。略称「要対協」）が、令和5年度になってから激減し、しかも、再三にわたる要請があるにもかかわらず開催されない問題について質しました。表題は質問の中で明らかになった問題で、別カウントすべきと指摘しました。

正規雇用対策では、非正規男性の生涯未婚率6割、35~39歳の有配偶率3割という衝撃的な数字を基に、特に若者の正規雇用化対策の強化を求めました。



常任委員会視察と単独行政 視察に行ってきました。♥



常任委員会視察と単独行政視察は、4年の任期中2年に1回ずつ実施されます。

昨年11月に常任委員会視察で2市1区、今年1月末から個人施策で2市1施設を訪問し、先進事例を学ばせていただきました。

<常任委員会視察> (11月7~9日)

○『新真和志複合施設建設について』 (那覇市)

○旭川市市民文化会館の建替論議が目前に迫る中、ホールもある公民館を含む複合施設建設計画を進めている那覇市に伺い、建設方法や財源確保、市民意見の反映、建設を進める上での課題等を学んで、参考にしたいと考えました。

○文化会館建設で最も重視すべきことは、文化芸術に携わる方々が満足できる施設を創ることです。

複合施設化の是と非、市民意見の丁寧な聴取と反映の重視、将来への財政負担等の考慮等々、本市の取組について考えさせられました。

○『①美味しい給食推進事業について』 / 『②認可外保育園への配食サービス事業について』 (浦添市)

①○「給食費が高い」「美味しい」「品数が少ない」等、本市の給食への不満を度々耳にします。

出来るだけ地産地消を心がけ、作り手と食べる子達の顔が見える自校方式(単独調理方式)や親子調理方式を多く残しているのに、残渣も多いと聞きます。旭川市の学校給食の課題と改善に向けたヒントが得られるのではないかと選びました。

○「元気の出る楽しくて、美味しい、満足する給食の提供で「行きたくなる学校」の推進！を

第一に掲げて、食育指導と地産地消とともに郷土食豊かさを重視して琉球料理を多く取り入れ、中学生3年生を対象とした琉球漆器利用で、郷土の歴史や文化に直接触れる取り組みも行なっています。

給食が、魅力ある学校づくりの推進や不登校減少への一助となり、子どもの貧困対策の一環となる他、学校給食納入業者29社の約半数(48%)が市内業者など、地元企業との連携から地域活性化も期待できる取り組みとなっています。

○旭川市では、地産地消推進や食育活動等の個別の活動や、栄養教諭や調理員の方々の個別の努力はあっても、旭川市全体での給食と教育を結びつける事業が存在しないことに気づかされました。

給食を食べることに費やせる時間が短いのも、大きな課題です。

○自分たちでレシピを考案する、調理をする、農業体験、陶芸体験(食器を作る)など、食から健康や文化等を学ぶ旭川っ子を育てる大掛かりなプロジェクトを創りたいと、改めて考えさせられました。

②どこの自治体も保育士確保に苦労し、様々な処遇改善に取り組んでいる中、保育従事者の負担軽減策として考案された配食サービス事業。実施に至った経緯や効果等を伺い、旭川市においての導入の可能性や課題等を検証したいと考えました。

○『部活動地域移行について』 (渋谷区)

○令和4年に入り、スポーツ庁・文化庁が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行が喫緊の課題となっています。

○旭川市においても、部活動の地域移行に関するアンケートを実施し、「旭川市運動部活動の地域移行に関する懇話会」を開催。モデル実証事業を取組み、旭川市に適した在り方や冬季の移動手段などの検証を進めています。部活動地域移行は教員の働き方改革の取り組みの一環であり、生徒はもちろん、教員や保護者の反応、推進の際に留意すべき点等を先進地に学び、今後の取り組みの参考にしたいと考えました。

○一般社団法人という新たな組織を作り、自由な発想で取り組む仕組みは、大変参考になりました。



※ 報告したいことが沢山あり、紙面が足りません。「単独行政視察」については、次号で報告。

<単独行政視察> (1月31~2月2日)

- 『インクルーシブ教育について』 (枚方市)
- 『学校法人きのくに子どもの村学園』 (橋本市)
- 『正規雇用促進事業について』 (館林市)